平成27年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月12日

上場会社名　グリーンランドリゾート株式会社　　上場取引所　東 福
コード番号　9656　URL http://www.greenland.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）江里口俊文
問合せ先責任者（役職名）経理部長　（氏名）寺田尚文　TEL 0968-66-2111
定時株主総会開催予定日　平成28年3月24日　配当支払開始予定日　平成28年3月25日
有価証券報告書提出予定日　平成28年3月24日
決算補足説明資料作成の有無　：　無
決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

1. 平成27年12月期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績　（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期	7,941	5.6	498	105.2	470	75.0	280	63.7
26年12月期	7,518	△4.5	242	△32.6	268	△13.2	171	△10.6

（注）包括利益　27年12月期　315百万円　（59.2%）　26年12月期　198百万円　（△13.3%）

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
27年12月期	27.14	—	2.7	2.2	6.3
26年12月期	16.58	—	1.6	1.2	3.2

（参考）持分法投資損益　27年12月期　—百万円　26年12月期　—百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期	21,816	10,693	49.0	1,034.46
26年12月期	21,691	10,460	48.2	1,011.90

（参考）自己資本　27年12月期　10,693百万円　26年12月期　10,460百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
27年12月期	901	△409	△482	282
26年12月期	500	△239	△226	273

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額（合計）	配当性向（連結）	純資産配当率（連結）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
26年12月期	—	3.00	—	5.00	8.00	82	48.2	0.8
27年12月期	—	3.00	—	8.00	11.00	113	40.5	1.1
28年12月期(予想)	—	4.00	—	5.00	9.00		—	

3. 平成28年12月期の連結業績予想（平成28年 1月 1日～平成28年12月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,800	6.2	70	37.0	45	16.9	25	71.7	2.42
通期	7,800	△1.8	350	△29.8	300	△36.2	200	△28.7	19.35

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

新規 —社 （社名） 、 除外 —社 （社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期	10,346,683 株	26年12月期	10,346,683 株
② 期末自己株式数	27年12月期	9,253 株	26年12月期	9,149 株
③ 期中平均株式数	27年12月期	10,337,481 株	26年12月期	10,337,534 株

（参考）個別業績の概要

平成27年12月期の個別業績（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(1) 個別経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期	4,939	7.3	254	72.6	243	22.2	122	—
26年12月期	4,603	△6.1	147	△41.2	199	△15.8	△488	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期	11.85	—
26年12月期	△47.28	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期	20,786	11,478	55.2	1,110.38
26年12月期	21,171	11,403	53.9	1,103.11

（参考） 自己資本 27年12月期 11,478百万円 26年12月期 11,403百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、〔添付資料〕4ページ「1.経営成績に関する分析 2）次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績・財政状態に関する分析 …… 2
（１）経営成績に関する分析 …… 2
（２）財政状態に関する分析 …… 7
（３）利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 …… 7
２．企業集団の状況 …… 8
３．経営方針 …… 10
（１）会社の経営の基本方針 …… 10
（２）目標とする経営指標 …… 10
（３）中長期的な会社の経営戦略 …… 10
（４）会社の対処すべき課題 …… 10
４．会計基準の選択に関する基本的な考え方 …… 10
５．連結財務諸表 …… 11
（１）連結貸借対照表 …… 11
（２）連結損益計算書及び連結包括利益計算書 …… 13
連結損益計算書 …… 13
連結包括利益計算書 …… 14
（３）連結株主資本等変動計算書 …… 15
（４）連結キャッシュ・フロー計算書 …… 17
（５）連結財務諸表に関する注記事項 …… 18
（継続企業の前提に関する注記） …… 18
（セグメント情報等） …… 18
（１株当たり情報） …… 19
（重要な後発事象） …… 19
６．その他 …… 20

１．経営成績・財政状態に関する分析

（１）経営成績に関する分析

１）当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、夏休みやシルバーウィーク等の繁忙日での集客策や海外顧客の取込等が奏功し、遊園地事業、ゴルフ事業、ホテル事業ともに好調に推移いたしました。その結果、当社グループの業績は前年を上回る結果となりました。

当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,941,951千円（前連結会計年度比423,369千円増）、営業利益498,555千円（前連結会計年度比255,642千円増）、経常利益470,021千円（前連結会計年度比201,388千円増）、当期純利益は280,597千円（前連結会計年度比109,173千円増）となり、各利益項目において過去10年で最高となりました。

	前連結会計年度（千円）	当連結会計年度（千円）	増減額（千円）	増減率（%）
売上高	7,518,582	7,941,951	423,369	5.6
営業利益	242,913	498,555	255,642	105.2
経常利益	268,633	470,021	201,388	75.0
当期純利益	171,424	280,597	109,173	63.7

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

（遊園地事業）

九州の『グリーンランド』におきましては、季節毎に多彩なイベントを開催いたしました。

「仮面ライダードライブ　スーパーアクションバトルステージ」では、日本最大規模の屋外ステージ「グリーンスタジアム」で、ワイヤーアクションやバイクアクション等を駆使し、ここでしか見ることのできない大迫力のショーを披露いたしました。

また、新たな取り組みとして、春から秋にかけては入館料を有料化することにより展示イベントを充実させ、花火大会での特別観覧席の設置等を行い、更なる顧客満足度向上を図りました。

その他にも、シルバーウィーク特別イベントやハロウィンイベント等、多彩なイベントを開催することにより集客に努めました。

施設面では、走路全長が九州最大級の「恐竜コースターＧＡＯ（ガオー）」や「巨大立体迷路　KARAKURI（カラクリ）城」のリニューアルを実施いたしました。また、園内の自然景観向上の新たな取り組みとして、花のエリア「スカイバレー」を造成いたしました。

さらに、「光のファンタジー」と題し、園内各所、アトラクションや店舗に至るまで、遊園地全体にイルミネーションを施し、夜間営業の魅力増大による集客拡大に努めました。特に、５月には「シャングリラ」、12月には「イルミナード」といった新イルミネーションエリアも誕生し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

その他にも、アトラクション運行状況システム導入やゲート販売窓口のインカム設置等、お客様満足度向上を目指し、利便性の高い施設づくりにも努めました。また、経費削減及び業務効率化の一環として、フリーパスバンドを一部、従来のビニール製品から紙製品へと変更いたしております。

『グリーンランド』は、世界最大級の口コミサイト「トリップアドバイザー」が発表した２０１５年人気テーマパークトップ１０の第７位（九州テーマパークで最上位）に選ばれました。また、『グリーンランド』を舞台にした小説「オズの世界」（作者：小森陽一氏）が発刊され、これらを活用した幅広い広報活動を展開し、『グリーンランド』のブランド価値向上に努めました。

このように、季節毎の多彩なイベントの開催や施設の魅力向上、ブランド価値向上への取り組みに加え、夏休み以降の繁忙日の好天にも恵まれました結果、利用者数は、前連結会計年度比33,645人増加の855,076人となり、売上高は前連結会計年度比261,587千円増加の3,442,706千円、営業利益につきましては、前連結会計年度比103,050千円増加の421,777千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春に「わんわん大サーカス」を、夏には北海道初登場の「妖怪ウォッチランド」を、また、年間を通じて子供たちに大人気のキャラクターショーを開催し、多くの家族連れで賑わいました。

また、岩見沢の夏の風物詩として定着した、コンサートイベント「ＪＯＩＮ　ＡＬＩＶＥ（ジョインアライブ）2015」、「いわみざわ彩花まつり花火大会」や「いわみざわ公園花火大会」を開催いたしました。

その他、北海道最大規模の大観覧車のリニューアルや新アトラクション「巨大立体迷路　からくり城」ならびに「カイトフライヤー」を導入する等、施設の魅力向上にも努めました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、学校団体等の営業は好調に推移したものの、暖冬による雪不足の影響で例年より営業期間が短くなったため売上高は対前年を下回りました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前連結会計年度比22,330人増加の254,976人となり、売上高は前連結会計年度比111,648千円増加の785,302千円、営業利益につきましては前連結会計年度比54,678千円増加100,774千円となりました。

以上の結果、利用者数は前連結会計年度比55,975人増加の1,110,052人となり、売上高は前連結会計年度比373,236千円増加の4,228,009千円、営業利益につきましては前連結会計年度比157,729千円増加の522,551千円となりました。

（ゴルフ事業）

３ゴルフ場におきましては、オープンコンペの開催や大型コンペ誘致に取り組み、集客拡大に努めました。さらに、プロゴルファーを目指した元研修生スタッフによるチャンピオン大会を３ゴルフ場で開催することで、高い技量を持つスタッフもいるという情報発信を行い、集客拡大に努めました。また、その様子が業界紙面に掲載される等、話題性の喚起にもつながりました。その他、コース整備につきましては、ティーグラウンドの拡張、バンカー・グラスバンカーの新設等、コースの戦略性を高め、魅力あるコースづくりに取り組みました。また、樹木の剪定や移植等により、コースの景観向上に取り組み、ご来場のお客様が快適なプレイをお楽しみいただけるよう努めました。更に、ロッカー室・トイレの改装等、施設の快適さ向上にも取り組みました。

また、韓国を中心とした海外ゴルファーの受入体制（３ゴルフ場７２ホールのスケールメリット、宿泊拠点となるホテル、送迎体制の完備、外国人スタッフによる対応等）や、海外ゴルフ場との相互施設利用提携等、これまでの継続した取り組みに加えて円安傾向も追い風となり、年々、その利用者数が増加しております。このような状況の中、韓国向けゴルフ会員権販売も好調に推移し、２０１５年度の海外利用者数は過去最高の8,980人となりました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、３６ホールという広大な敷地の中、他コースとの交差場所や遠回りとなっていたゴルフカートの移動ルートを変更することで利便性を高めるとともに安全性の確保に取り組みました。さらに、ルート変更に伴い、バックティーの新設を実施することで、コース難易度を高め、より戦略性の高いコースとなりました。施設面では、男性浴室・トイレの改装、山頂レストランのウッドデッキ新設、大型乾燥機の設置、ＩＣチップ対応の自動販売機設置等、お客様の利便性ならびに快適性の向上を図りました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』におきましては、グリーンの改造・樹木の剪定ならびに使用していなかったつり橋やオートロードの撤去を行い、景観向上とともに魅力あるコース作りに取り組みました。施設面では、メンバー専用ロッカー室の改装やハウス周りの整備等、利便性や快適性の向上に努めました。

以上の取り組みの結果、３ゴルフ場を合わせた利用者数は前連結会計年度比2,806人増加の141,661人となり、売上高は前連結会計年度比58,818千円増加の1,081,820千円、営業利益につきましては、前連結会計年度比33,605千円増加の67,182千円となりました。

（ホテル事業）

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』におきましては、グリーンランド花火大会における園内特別観覧席付きプランやキャンプ場新設等、遊園地に隣接した立地条件を最大限に生かした特色ある宿泊プランを新設し、顧客満足度向上に努めました。

さらに、『ホテルブランカ』におきましては、新たに部屋を増設し集客強化に取り組みました。また、小さなお子様連れのお客様が快適に過ごせるよう、ベビールームを新設しサービスの向上にも努めました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地の春のイベント開催にあわせ、「仮面ライダードライブ」ルームを期間限定で新設いたしました。また、『ホテルヴェルデ』と「荒尾温泉弥生乃湯」に囲まれた立地を活かしてキャンプ場をオープンし、お客様が手ぶらでアウトドアを楽しめる宿泊プランを造成いたしました。その他、遊園地での婚礼の前撮りや花火の演出等、オリジナルの婚礼プラン、スイートルームを利用したパーティープラン等、当ホテルの特色を生かした商品販売に努めました。また、日本料理「小岱」の料理長が、全国日本料理コンクールにおいて前年の「東京都知事賞」に続き、本年は「文部科学大臣賞」を受賞しましたので、「文部科学大臣賞」受賞記念メニューを販売し、話題性の喚起を図りました。

この結果、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前連結会計年度比7,691人増加の70,731人となり、売上高は前連結会計年度比56,434千円増加の1,586,126千円、営業利益につきましては、80,884千円（前連結会計年度は営業損失25,758千円）となりました。

『ホテルサンプラザ』におきましては、客室のリニューアルによる料金の見直しや50品以上の品揃えとなる朝食バイキング付プラン等、高単価プランへの積極的な誘導により売上増大に努めました。さらに、客室に加湿器やコーヒーサーバーを設置する等、顧客満足度向上にも努めました。また、ホームページをリニューアルし、これまで以上にホテルの魅力を伝え、最新情報を絶えず迅速に発信していくことで集客拡大に取り組みました。

『北村温泉ホテル』におきましては、各施設の回遊性を高めるために、レストランや森森パークゴルフ場でスタンプラリー等のイベントを実施し、利用者及び売上拡大に努めました。

この結果、『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』の宿泊者は前連結会計年度比719人増加の28,106人となり、宴会部門の好調もあり、売上高は前連結会計年度比56,892千円増加の686,791千円、営業利益につきましては前連結会計年度比6,922千円増加の23,922千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前連結会計年度比8,410人増加の98,837人となり、売上高は前連結会計年度比113,327千円増加の2,272,917千円、営業利益につきましては104,807千円（前連結会計年度は営業損失8,758千円）となりました。

（不動産事業）

不動産事業におきましては、社有地及びその周辺の整備等に取り組みました。売上高は前連結会計年度比10,182千円減少の150,557千円、営業利益につきましては、前連結会計年度並の92,701千円となりました。

（土木・建設資材事業）

土木・建設資材事業におきましては、前期で一部受注工事が終了したことにより、売上高は前連結会計年度比111,830千円減少の208,646千円、営業利益につきましては前連結会計年度比28,474千円減少の20,026千円となりました。

２）次期の見通し

当社グループを取り巻く環境は、多様化する顧客ニーズに加え、気象環境や経済環境など様々な変化が続くものと予測されます。そのような状況の中、当社グループにおきましては、それらに迅速に対応するとともに固定観念にとらわれることなく新たな発想をもって挑戦してまいります。

また、平成２８年は『グリーンランド』が開園５０周年、『グリーンランドリゾートゴルフコース』も開場５０周年を迎えるという記念の年となります。そこで、今年度の当社グループのテーマとして「もっともっと、ワクワクしよう！」を掲げ、更なる感動と感激、そして感謝される『三感王』の施設づくりを目指してまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

（遊園地事業）

九州の『グリーンランド』におきましては、開園５０周年という記念の年であり、それを最大限に盛り上げるために、特別イベントの開催、アトラクションの新規導入ならびにリニューアル、開園５０周年の記念商品開発、スタッフの制服刷新等、新たな『グリーンランド』の魅力を発信してまいります。

春のイベントにつきましては、３月５日（土）から６月５日（日）まで、メインイベントとして「ＯＮＥ　ＰＩＥＣＥ　メモリアルログ　新世界激闘編!!　ｉｎ　熊本グリーンランド」と題し、国内外を問わず大人気のアニメ「ワンピース」の世界観を体感できる展示イベントを開催いたします。メイン会場のイベントホールは、「麦わらの一味」の冒険を辿ることのできる内容となっており、日本初登場となる展示物もあるなど、幅広い層のお客様にお楽しみいただける内容となっております。サブ会場の「レインボードーム」では、「麦わらの一味」なりきりコーナーの展開や、巨大ふあふあの展示などを行い、さらに、園内では、「麦わらの一味」や「ミニメリー」のフォトスポットや回遊型デジタルラリーの開催、飲食店舗でのコラボメニューの販売等、春の『グリーンランド』は「ワンピース」一色となります。

また、期間中の土日祝・春休み・ゴールデンウィークには、子供たちに大人気のヒーロー「仮面ライダーゴースト」を主役に据え、日本最大級のスケールを誇る「グリーンスタジアム」において、約２５０インチの巨大ＬＥＤスクリーンによる映像演出や炎・火薬の演出等をふんだんに使用した大迫力のショーイベント「仮面ライダーゴースト　魂バトルステージ」を開催いたします。さらに、ゴールデンウィーク期間中は「平成ライダー大集合」、ファイナルイベントでは「歴代ライダー大集合」も開催いたします。

その他にも、話題性の高い様々なイベントに取り組んでまいります。

さらに、今年は、開園５０周年記念イベントとして、様々な仕掛けを行ってまいります。３月２０日（日）には、開園５０周年を記念して５，０００発の花火が舞い上がる「ＨＡＮＡＢＩフェスティバル」を開催いたします。また、「仮面ライダーゴースト　魂バトルステージ」開催期間中は、特別観覧席付前売券の販売を行います。広大なステージを見渡せる、観覧席中央の座席の事前販売を行うことで、顧客満足度の向上を図ります。その他、さまざまなイベントを計画しており、開園５０周年を盛り上げてまいります。

施設面では、新規アトラクション「プテラノドン」ならびに「エキサイトグランプリ」の導入に加え、人気のジェットコースター「ミルキーウェイ・織姫」において、ＢＧＭシステム搭載の新型車両へのリニューアルを実施いたします。また、イルミネーションイベント「光のファンタジー」に、日本最長のプロジェクションマッピングロード「マジカルトリックフロア」が登場いたします。さらに、子供向け体験型アトラクション「ヒナタキッズ」の館内に併設して、飲食店「ヒナタカフェ」を新規オープンさせ、アトラクションとくつろぎのスペースが一体となった新たな魅力ある施設へと生まれ変わっております。また、夏季に好評を博しております「ウォーターパーク

（プール）」におきましても、お客様の快適性と機能性向上の両面から、更衣室やロッカールームなどのリニューアルを図ってまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春に「スーパードッグ＆モンキーサーカス」、集客の山場となる繁忙日には子供たちに人気のキャラクターショー等、様々なイベントを開催し、集客に努めてまいります。また、昨年導入した新アトラクションのＰＲを継続して行い、集客拡大に取り組んでまいります。その他にも、人気のジェットコースター「ＧＯ−ＯＮ」がリニューアルいたします。遊園地のシンボルアトラクションとして色鮮やかに生まれ変わり、施設の魅力向上、話題性の喚起に繋げてまいります。さらに、遊園地の魅力の１つでもあります、キャラクターショー等のイベントが行われる屋外ステージも新たに生まれ変わります。北海道最大級の規模となる大迫力のステージで、これまで以上に魅力あるイベント作りに努めてまいります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、学校授業を中心に子ども会などの各種団体の誘致に努めてまいります。

（ゴルフ事業）

ゴルフ事業におきましては、『グリーンランドリゾートゴルフコース』が開場５０周年を迎えるにあたり、新たな取り組みに挑戦してまいります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』では、最新式のナビゲーションシステムへの入替を実施いたします。これまでナビゲーションシステム対応ではなかったオレンジコースを含め、全てのコースでのナビゲーションシステムの利用が可能となり、最新式への入替による利便性向上をＰＲしていくことで、利用促進に繋げてまいります。さらに、システム導入に伴う利用料金の改定も行い、売上増大を図ってまいります。

また、『大牟田ゴルフ場』と『広川ゴルフ場』のメンバーズゴルフコースでは、キャディ教育を充実させ、セルフプレー化の進む近隣ゴルフ場との差別化を図り、当社独自のサービス提供に努めてまいります。

加えて、海外ゴルファーが増加している中、受入体制の強化等、当社の強みをＰＲする営業活動の他、海外及び国内の提携ゴルフ場との関係を深め、利用促進に繋げてまいります。また、昨年、当社が所有する３ゴルフ場で行われた元研修生スタッフによるチャンピオン大会を、今年は海外及び国内の提携ゴルフ場等で開催することにより、更なる関係強化を図るとともに、業界紙面への掲載等に取り組むことで話題性の喚起にも努めてまいります。

その他にも、ゴルファー目線を大事にし、施設の改修、樹木の剪定・移植等、コース環境の整備に引き続き努めてまいります。

（ホテル事業）

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、オフィシャルホテルとしてのブランドイメージ向上を目指した商品造成やサービスを展開し、グリーンランドリゾート全体のお客様の宿泊拠点としての役割に磨きをかけてまいります。その他、遊園地開園５０周年と連携した商品開発に取り組んでまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、春から夏のバーベキュー、秋から冬の鍋イベントと年間を通じてイベントを行い、また内容を充実させ、料金を見直すことで売上拡大につなげてまいります。施設面におきましては、昨年、ベビールームの新設や部屋の増設等に取り組みましたが、今年も引き続き、館内のリニューアル等を進めていくことで顧客満足度向上に繋げてまいります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、レジャー施設の中心に位置する立地条件や温泉施設を活用した商品・サービス展開により集客に努めてまいります。さらに、昨年秋にオープンしたキャンプ場を、今年は春よりオープンさせ、キャンプ場を活用した宿泊プランの販売により集客に努めてまいります。また、今春、宴会場をリニューアルオープンいたします。新しく生まれ変わった宴会場を使って、様々なイベントを仕掛け、ＰＲしていくことで、宴会及び婚礼獲得に取り組んでまいります。さらに、館内外のイルミネーションを充実させていくことで、レジャーホテルとしての付加価値向上に繋げてまいります。宿泊におきましては、遊園地の春のイベント開催にあわせ「仮面ライダーゴーストルーム」を期間限定で新設するほか、特徴ある商品造成に努めてまいります。

北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地・ホテル・公園をあわせたリゾート全体でのスケールメリットを活かし、さまざまなセットプランを企画販売し、売上拡大、集客に努めてまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、昨年に引き続き、客室のリニューアルを実施し、販売方法や宿泊料金の見直しを行うことで売上拡大に努めてまいります。また、ホームページを充実させていくことで、インターネット予約や婚礼営業の強化を進めてまいります。

『北村温泉ホテル』におきましては、バスを保有している強みを生かし、無料送迎等のサービスを展開していくことで宴会獲得を目指してまいります。また、北村中央公園・桜づつみ公園とのタイアップイベント等を企画していくことで、集客に努めてまいります。

（不動産事業）

不動産事業におきましては、継続した新規テナントの誘致活動に努めてまいります。また、各事業用地及び周辺部の整備、景観改善を実施いたします。

（土木・建設資材事業）

土木・建設資材事業におきましては、土木建設工事の積極的な受注、コールサンドやポゾテックなどの建設資材の販売をさらに強化してまいります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱいに。」というキャッチコピーのもと、全員が一致団結して事業に取り組んでまいりました。これから更に発展していくために、お客様の期待感と満足度を高め、安全安心で快適な時間を過ごしていただくための施策に磨きをかけて、最高のサービスの提供に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,800百万円(前連結会計年度比△1.8%)、営業利益350百万円(前連結会計年度比△29.8%)、経常利益300百万円(前連結会計年度比△36.2%)、当期純利益200百万円(前連結会計年度比△28.7%)を見込んでおります。

（２）財政状態に関する分析

１）資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,816,678千円（前連結会計年度比125,455千円増加）となりました。

流動資産は、679,138千円（前連結会計年度比55,700千円減少）となりました。主な要因は流動資産のその他の減少等によるものであります。

固定資産は、21,137,539千円（前連結会計年度比181,156千円増加）となりました。主な要因は有形固定資産の増加等によるものであります。

流動負債は、4,561,924千円（前連結会計年度比173,393千円増加）となりました。主な要因は未払法人税等、未払金の増加等によるものであります。

固定負債は、6,561,112千円（前連結会計年度比281,009千円減少）となりました。主な要因は長期借入金、長期預り金の減少等によるものであります。

純資産は、10,693,641千円（前連結会計年度比233,072千円増加）となりました。主な要因は利益剰余金の増加等によるものであります。

２）キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動によるキャッシュ・フローで901,400千円増加したものの、投資活動によるキャッシュ・フローで409,647千円、財務活動によるキャッシュ・フローで482,765千円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べ8,987千円増加し、282,597千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、901,400千円（前連結会計年度に比べ401,355千円増加）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益により458,001千円、減価償却費により414,702千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、409,647千円減少（前連結会計年度に比べ170,258千円減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出で412,068千円、資金が減少したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、482,765千円減少（前連結会計年度に比べ255,927千円減少）となりました。これは主に、長期借入れによる収入1,180,000千円により資金が増加したものの、長期借入金の返済による支出1,516,584千円、長期預り金の返還による支出により111,349千円、それぞれ資金が減少したためであります。

（３）利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の使途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、１株につき８円となる予定であり、中間配当金３円を含めますと年間配当金は１株につき11円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、１株につき中間配当金を４円、期末配当金を５円の年間配当金９円を予定しております。

２．企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社３社ならびにその他の関係会社１社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.25％を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

＜遊園地事業＞

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内３店舗、園内売店の内５店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内４店舗、園内売店の内２店舗、園内施設のうち１施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地(北海道)	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。

＜ゴルフ事業＞

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

＜ホテル事業＞

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンプラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンプラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

＜不動産事業＞

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。

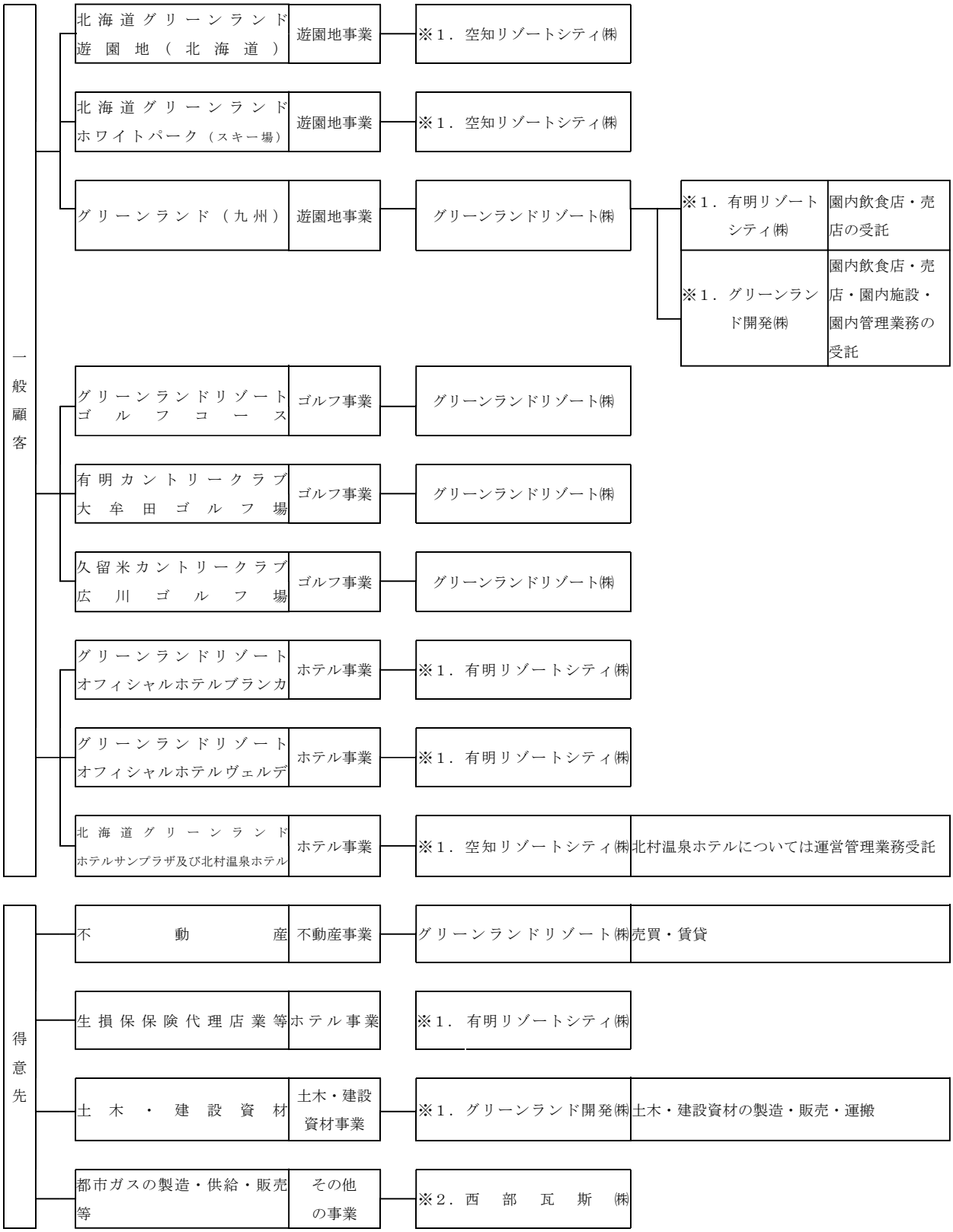
＜土木・建設資材事業＞

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。

＜その他の事業＞

都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



（注）※1．連結子会社
　　※2．その他の関係会社

３．経営方針

（１）会社の経営の基本方針

創業以来現在まで、たゆまぬ創造・革新によってお客様に常に満足を提供することを心がけてまいりました。これからも企業理念のキャッチコピーである「ココロを『みどり』でいっぱいに。」を合言葉に、各事業におきまして、お客様に夢や感動を提供することを最重要課題と位置付け、スタッフ一人一人が、いかなる状況の変化にも対応し、その状況を突破するための柔軟な発想と実行力を持つことに重点を置き、新しい付加価値を次々と創出していくことで、当社グループ事業の「強み」に磨きをかけ、日々変化する顧客ニーズや消費動向に対応するとともに、当社グループ事業の競争力を高めることで業績向上に努めてまいります。

また、企業として利益の確保に向けた経営を進めていくことはもちろんのこと、社会的責任を自覚の上、法令の遵守や倫理に則った企業活動を実践し、地域発展への貢献にも努め、すべてのステークホルダーから「信頼」される企業を目指してまいります。

（２）目標とする経営指標

目まぐるしく変化する消費動向に対応し、常に変化し続ける営業体制作りを心がけ、様々な商品やサービスの提供に努めて集客を図り売上増加を目指すとともに、現状分析及び関連設備の全面的な見直しを行い、無駄な経費の削減に努めてまいります。

このため、売上高経常利益率の向上を目標としております。

（３）中長期的な会社の経営戦略

集客事業を柱とする当社グループでは、多彩なイベントの開催・季節に応じたキャンペーンの造成・昨今増加しつつある女性層や若年層に的を絞った戦略・さらには海外からのお客様に向けた制度を最大限に活かした営業展開や商品の販売強化に引き続き取り組み、さらなる集客を図ります。

また、外部環境に柔軟に対応可能な組織変更やグループ再編による各事業の効率化の実現を目指してまいります。

（４）会社の対処すべき課題

レジャー産業を取り巻く社会環境は、刻々と変化を続け、消費動向や顧客ニーズはさらに多様化し、依然として厳しい状況が続くものと思われますが、当社グループとしましては、企業理念である「夢や感動を与える企業」を目指し、お客様一人一人と向き合い、子どもたちに夢を与え、また、多くのお客様に感動をお届けできるような魅力ある施設作りや、真心を込めたサービスの追求に努めていくことで、一人でも多くのお客様にご利用いただき、さらなるリピーターの獲得に取り組み、業績向上に努めてまいります。

また、これまでにも増して、遊園地の安全面について万全の体制を敷き、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設の点検整備並びに園内環境整備の取り組みを基本とし、さらには、園内において様々な空間演出に力を入れ、賑やかさを創り出し、お客様により一層の楽しさを提供してまいります。

４．会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

５．連結財務諸表

（１）連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成26年12月31日）	当連結会計年度 （平成27年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	273,610	282,597
受取手形及び売掛金	221,125	190,647
商品及び製品	16,399	39,748
原材料及び貯蔵品	61,887	60,443
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	9,351	18,386
その他	149,726	83,888
貸倒引当金	△4,393	△3,704
流動資産合計	734,839	679,138
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,265,728	13,433,953
減価償却累計額	△8,996,195	△9,222,217
建物及び構築物（純額）	4,269,533	4,211,735
機械装置及び運搬具	3,207,370	3,506,481
減価償却累計額	△2,820,211	△2,899,557
機械装置及び運搬具（純額）	387,158	606,924
土地	15,097,749	15,065,615
リース資産	113,649	133,799
減価償却累計額	△30,659	△47,128
リース資産（純額）	82,990	86,670
建設仮勘定	28,000	－
その他	1,061,538	1,101,930
減価償却累計額	△964,798	△992,302
その他（純額）	96,740	109,627
有形固定資産合計	19,962,171	20,080,573
無形固定資産		
その他	228,924	227,276
無形固定資産合計	228,924	227,276
投資その他の資産		
投資有価証券	308,968	357,113
繰延税金資産	303,326	302,944
退職給付に係る資産	93,732	101,602
その他	60,360	69,129
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	765,287	829,689
固定資産合計	20,956,383	21,137,539
資産合計	21,691,223	21,816,678

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成26年12月31日）	当連結会計年度 （平成27年12月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	82,839	94,270
営業未払金	92,679	103,916
短期借入金	3,739,446	3,649,500
リース債務	19,526	23,424
未払金	291,773	384,251
未払法人税等	33,997	141,593
その他	128,269	164,968
流動負債合計	4,388,531	4,561,924
固定負債		
社債	－	100,000
長期借入金	3,499,736	3,218,138
長期預り金	3,116,591	3,007,442
リース債務	47,685	42,025
繰延税金負債	40,535	55,225
退職給付に係る負債	8,356	7,543
その他	129,218	130,738
固定負債合計	6,842,122	6,561,112
負債合計	11,230,653	11,123,037
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,462,633	1,660,530
自己株式	△2,992	△3,033
株主資本合計	10,407,576	10,605,432
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	52,992	88,208
その他の包括利益累計額合計	52,992	88,208
純資産合計	10,460,569	10,693,641
負債純資産合計	21,691,223	21,816,678

（２）連結損益計算書及び連結包括利益計算書

(連結損益計算書)

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自　平成26年１月１日 至　平成26年12月31日）	当連結会計年度 （自　平成27年１月１日 至　平成27年12月31日）
売上高	7,518,582	7,941,951
売上原価	6,686,424	6,841,304
売上総利益	832,157	1,100,647
販売費及び一般管理費	589,244	602,091
営業利益	242,913	498,555
営業外収益		
受取利息	33	30
受取配当金	5,696	6,053
受取賃貸料	3,270	3,290
受取保険金	2,345	6,496
受取損害賠償金	66,329	－
助成金収入	－	10,642
雑収入	18,394	7,855
営業外収益合計	96,070	34,369
営業外費用		
支払利息	69,347	61,260
雑損失	1,002	1,642
営業外費用合計	70,350	62,903
経常利益	268,633	470,021
特別利益		
固定資産売却益	11,178	2,787
固定資産受贈益	－	32,000
長期預り金戻入益	2,300	－
特別利益合計	13,478	34,787
特別損失		
固定資産除売却損	330	6,334
減損損失	－	40,472
その他	45	－
特別損失合計	375	46,807
税金等調整前当期純利益	281,735	458,001
法人税、住民税及び事業税	91,916	184,295
法人税等調整額	18,393	△6,891
法人税等合計	110,310	177,404
少数株主損益調整前当期純利益	171,424	280,597
当期純利益	171,424	280,597

（連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自　平成26年１月１日 至　平成26年12月31日）	当連結会計年度 （自　平成27年１月１日 至　平成27年12月31日）
少数株主損益調整前当期純利益	171,424	280,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,897	35,215
その他の包括利益合計	26,897	35,215
包括利益	198,321	315,813
（内訳）		
親会社株主に係る包括利益	198,321	315,813
少数株主に係る包括利益	－	－

（３）連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自平成26年１月１日　至平成26年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,384,246	△2,992	10,329,189
当期変動額					
剰余金の配当			△93,037		△93,037
当期純利益			171,424		171,424
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	78,386	－	78,386
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,462,633	△2,992	10,407,576

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	26,095	26,095	10,355,285
当期変動額			
剰余金の配当			△93,037
当期純利益			171,424
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26,897	26,897	26,897
当期変動額合計	26,897	26,897	105,283
当期末残高	52,992	52,992	10,460,569

当連結会計年度（自平成27年１月１日　至平成27年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,462,633	△2,992	10,407,576
当期変動額					
剰余金の配当			△82,700		△82,700
当期純利益			280,597		280,597
自己株式の取得				△40	△40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	197,897	△40	197,856
当期末残高	4,108,101	4,767,834	1,660,530	△3,033	10,605,432

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	52,992	52,992	10,460,569
当期変動額			
剰余金の配当			△82,700
当期純利益			280,597
自己株式の取得			△40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,215	35,215	35,215
当期変動額合計	35,215	35,215	233,072
当期末残高	88,208	88,208	10,693,641

（４）連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自　平成26年１月１日 至　平成26年12月31日）	当連結会計年度 （自　平成27年１月１日 至　平成27年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	281,735	458,001
減価償却費	423,303	414,702
減損損失	－	40,472
固定資産受贈益	－	△32,000
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△9,059	－
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△93,732	△3,527
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	8,356	△812
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△17,239	△689
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△13,730	－
受取利息及び受取配当金	△5,730	△6,083
支払利息	69,347	61,774
受取保険金	△2,345	△6,496
固定資産売却損益（△は益）	△11,178	△2,787
固定資産除売却損益（△は益）	330	6,334
売上債権の増減額（△は増加）	77,357	32,867
たな卸資産の増減額（△は増加）	16,345	△21,905
仕入債務の増減額（△は減少）	△6,208	22,668
未払金の増減額（△は減少）	△24,991	12,768
未払消費税等の増減額（△は減少）	42,203	△30,627
その他	1,839	69,633
小計	736,602	1,014,292
利息及び配当金の受取額	5,730	6,083
利息の支払額	△69,341	△61,208
保険金の受取額	2,345	6,496
法人税等の支払額	△175,292	△64,264
営業活動によるキャッシュ・フロー	500,044	901,400
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,400	－
定期預金の払戻による収入	6,900	－
有形固定資産の取得による支出	△245,121	△412,068
有形固定資産の売却による収入	11,722	3,062
無形固定資産の取得による支出	△7,479	△1,300
貸付金の回収による収入	400	400
投資有価証券の取得による支出	△500	－
その他	90	257
投資活動によるキャッシュ・フロー	△239,388	△409,647
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△100,000	△35,000
社債の発行による収入	－	100,000
長期借入れによる収入	1,530,000	1,180,000
長期借入金の返済による支出	△1,367,127	△1,516,544
長期預り金の受入による収入	1,300	2,200
長期預り金の返還による支出	△178,400	△111,349
リース債務の返済による支出	△19,713	△19,093
自己株式の取得による支出	－	△40
配当金の支払額	△92,897	△82,937
財務活動によるキャッシュ・フロー	△226,837	△482,765
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	33,818	8,987
現金及び現金同等物の期首残高	239,791	273,610
現金及び現金同等物の期末残高	273,610	282,597

（５）連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

１．報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	：遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	：ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	：ホテルの経営、運営
不動産事業	：不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	：建設資材の製造、販売、運搬

２．報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自　平成26年１月１日　至　平成26年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額（注）1	連結財務諸表計上額（注）2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,854,773	1,023,001	2,159,590	160,739	320,477	7,518,582	－	7,518,582
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,950	11,567	26,430	5,577	10,283	57,810	△57,810	－
計	3,858,724	1,034,569	2,186,020	166,317	330,761	7,576,392	△57,810	7,518,582
セグメント利益又は損失（△）	364,821	33,576	△8,758	93,990	48,501	532,132	△289,218	242,913
その他の項目								
減価償却費	152,613	56,272	174,122	20,147	15,572	418,728	4,574	423,302

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△290,934千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（自　平成27年１月１日　至　平成27年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額（注）1	連結財務諸表計上額（注）2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,228,009	1,081,820	2,272,917	150,557	208,646	7,941,951	－	7,941,951
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,400	11,326	26,657	9,350	10,411	62,147	△62,147	－
計	4,232,410	1,093,146	2,299,575	159,908	219,058	8,004,099	△62,147	7,941,951
セグメント利益又は損失（△）	522,551	67,182	104,807	92,701	20,026	807,268	△308,713	498,555
その他の項目								
減価償却費	181,351	57,236	138,268	17,684	15,347	409,888	4,813	414,702

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△308,575千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

（１株当たり情報）

	前連結会計年度（自　平成26年１月１日　至　平成26年12月31日）	当連結会計年度（自　平成27年１月１日　至　平成27年12月31日）
１株当たり純資産額	1,011.90円	1,034.46円
１株当たり当期純利益金額	16.58円	27.14円

（注）１．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２．１株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度（自　平成26年１月１日　至　平成26年12月31日）	当連結会計年度（自　平成27年１月１日　至　平成27年12月31日）
当期純利益（千円）	171,424	280,597
普通株主に帰属しない金額（千円）	－	－
普通株式に係る当期純利益（千円）	171,424	280,597
期中平均株式数（千株）	10,337	10,337

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

６．その他

(1) 役員の異動

① 代表取締役の異動

該当事項はありません。

② その他の役員の異動

・新任取締役候補（社外取締役）

取締役　西本　純一（現　株式会社肥後銀行　取締役常務執行役員）

・退任予定取締役（社外取締役）

取締役　上野　豊徳（現　株式会社肥後銀行　常任監査役）

③ 就任予定日

平成28年３月24日